

ひと かか ふか とり
人と関わりの深い鳥たち



ツバメ 旅 留

全長17cm

年に2回飛来す

る。耕作地や畜舎近くの草地の上を低空で飛び回り、虫を食べる。



リュウキュウツバメ

留 夏 留

全長14cm

春～夏に人家や

橋の下などに巣を作る。ツバメに比べ尾が短い。



ツバメは夏に日本列島で繁殖し、東南アジアで冬を過ごす。

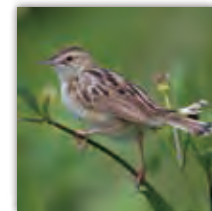
します。春と秋の渡りの途中で宮古諸島に飛来しますが、その時期が豆を植えて花が咲く時期と、収穫する時期に重なるため、豆を表す言葉が方言名についています。



参考:『ツバメの方言とその由来、および各地におけるツバメ観—宮古からの出発—』渡久山章(宮古の自然と文化第3集,2011)

宮古の人たちは「ヒバリ」と呼ぶ

ガイチン、ガヤンチュ



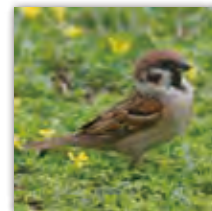
セッカ 留 留

全長12.5cm

鳴きながら上下に

飛ぶ。オスはス

キの葉をクモの糸で縫い合わせて巣の外壁を作り、それを気に入ったメスが内装を仕上げて産卵・子育てをする。



スズメ 留 留

全長14.5cm

宮古全域で

言名がある。

虫捕りは苦手。繁殖期以外は集団で一か所をねぐらにする。

【スズメと泡盛のはじまり】

昔、米や粟のよくとれる田んぼの横の木に、たくさんスズメが米や粟の穂をくわえて帰ってはついて食べていました。いつしかこぼした米や粟が木のうろに溜まり、雨でふやけて麴ができ、もろみになりました。それをスズメが舐めたりつついているのを見た人が「これは飲めそうだ」と、粟で酒をつくって飲んでみると、なんともいいお酒でした。これを「泡盛」と名付けました。



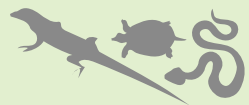
参考:『いらぶの民話』遠藤(1989)

【雲雀と生き水】

昔、ヒバリは一番大きい鳥で、神様の使いでした。賢く、巣作りもとても上手でした。ある日、神様が「巣出水を持って天に昇ってきなさい」とヒバリとヘビに命じます。天に向かう途中、ヘビがヒバリの足に巻き付いてきたので、びっくりしたヒバリは持っていた巣出水をヘビに浴びせてしまいました。それを聞いた神様は「水を浴びたヘビは永遠に生きられることになった。ヘビの悪知恵に負け罪を犯したお前を罰として絞上げる」と、ヒバリの体を小さくしてしまいました。

※巣出水：生き水のこと。これを浴びると健康に恵まれます。豊年祭の翌日に浴びる。

参考:『ゆがたい宮古島の民話 第四集』宮古民話の会(1984)

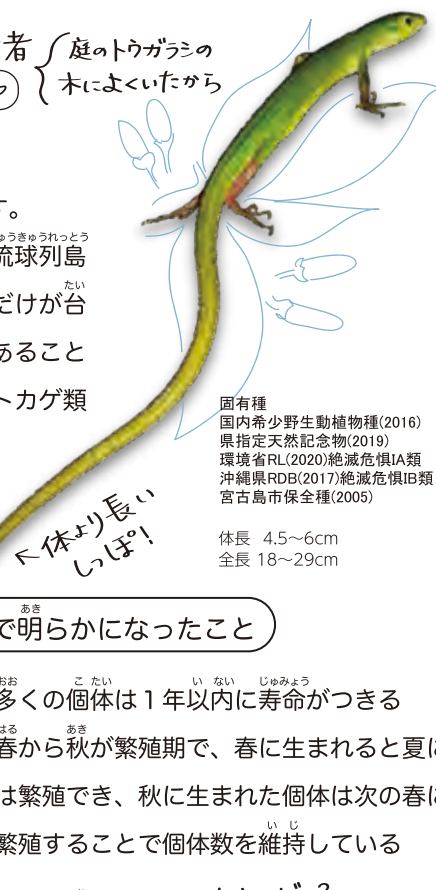


宮古諸島で確認されている陸棲爬虫類は7科17属18種です。ほとんどの種は宮古諸島以南でしか見られない固有種です。特にミヤコカナヘビやミヤコヒバアは、島の成り立ち解明のカギを握るとされ、その存在が注目されています。

ミヤコカナヘビ

草地にすみ、クモや昆虫を好んで食べます。
1996年に新種として登録、DNA調査で琉球列島にいる緑色のカナヘビ3種のうち、本種だけが台湾や大陸産の薄茶色のカナヘビが祖先であることが分かりました。宮古諸島の成り立ちやトカゲ類の体色の進化を知る上で貴重な存在です。
現在、数が激減し、国の保護増殖事業により、地域外で飼育・繁殖が行われています。

トウガラシを食べる者
クースウファヤ

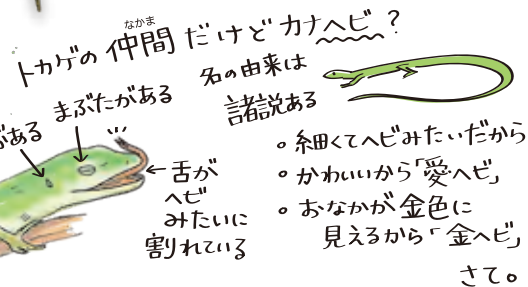


固有種
国内希少野生動植物種(2016)
県指定天然記念物(2019)
環境省RL(2020)絶滅危惧IA類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧IB類
宮古島市保全種(2005)

体長 4.5~6cm
全長 18~29cm

研究で明らかになったこと

- ・多くの個体は1年以内に寿命が尽きる
- ・春から秋が繁殖期で、春に生まれると夏には繁殖でき、秋に生まれた個体は次の春に繁殖することで個体数を維持している



トカゲの仲間 だけどカナヘビ？
舌の由来は諸説ある
・糸田てへびみたいだから
・かわいいから「愛へび」
・おなか金が金色に見えるから「金へび」
まぶたがある
舌がへびみたくに割れている
耳がある

トウガラシを食べる仲間
クースウファヤ

サキシマキノボリトカゲ

環境省 RL(2020) 準絶滅危惧
沖縄県 RDB(2017) 準絶滅危惧

頭胴長 オス4.8~7.7cm/メス4.7~6.8cm
全長 オス27cm/メス20cm

昆虫や特にアリを好んで食べる。なわばりを持ち、オスは威嚇するときに腕立て伏せのような動きをする。



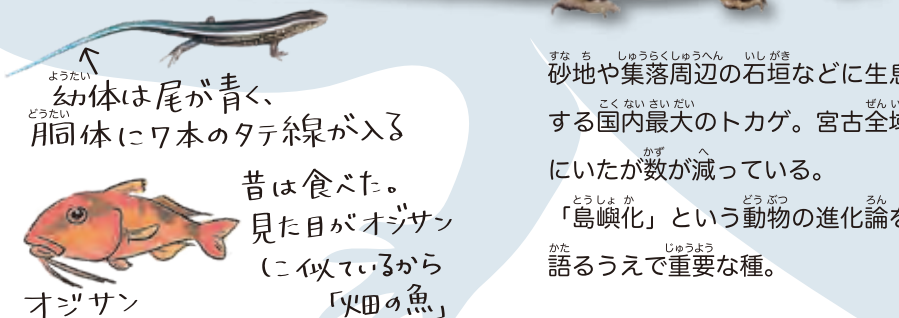
火田の魚
バカギジャ、パライズウ

キシノウエトカゲ

国指定天然記念物(1975)
環境省RL(2020)絶滅危惧II類
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)
体長 オス17cm/メス14cm
全長 オス40cm/メス33cm

幼体は尾が青く、
月同体にワ本のタテ糸線が入る

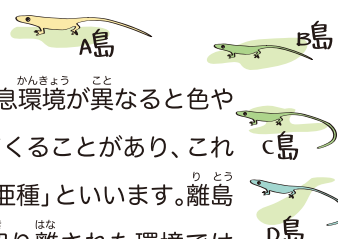
昔は食べた。
見た目がオジサン
に似ているから
「火田の魚」
オジサン



砂地や集落周辺の石垣などに生息する国内最大のトカゲ。宮古全域にいたが数が減っている。
「島嶼化」という動物の進化論を語るうえで重要な種。

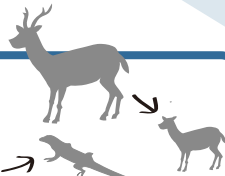
亜種とは

同じ種でも、生息環境が異なると色や形に違いが出てくることがあり、これらをその種の「亜種」といいます。離島などほかから切り離された環境では亜種になることが多くなります。



島嶼化

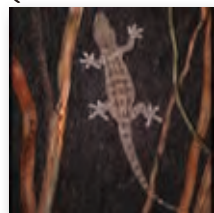
小さな島の生物は、大陸にいる近縁種が大きいものは小型化し、小さければ大型化する傾向にあります。



実は鳴くのはこの種だけ

／キョッキョッキョッ／

ヤーズミ



ホオグロヤモリ



奄美大島より南に生息。家の中や外灯の近くにいる。宮古は畑でもよくみる。

頭胴長 4.5~6cm
全長 9~13cm

トカゲの仲間だけど 夜行性なので まぶたは開かない



ヤーズミ



ミナミヤモリ



屋外の庭木や自然林にいる。背や尾に縞模様が入ることが多い。

頭胴長 5~6.5cm
全長 10~13cm

ヤーズミ

オンナダケヤモリ



尾が平たく太く見える。薄暗い場所を好み押入などによくいる。

頭胴長 4~5.5cm
全長 10~12cm



ねんちゃくぶつしつ きゅうばん 粘着物質でも吸盤でもない！

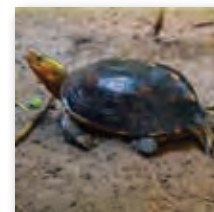
ヤモリの足の裏、すごいんです

ヤモリの足指の裏には1000分の1ミリほどの毛がびっしり生えています。この毛の先はさらに細く枝分かかれし、壁やガラスの表面のデコボコに入り込みます。すると、毛と接したところに「ファンデルワールス力」というとても小さな引力がたろき、それが足指に集まることで、吸盤のような吸着力を生み出しているのです。



ほごたいしょう がいらいしゅ 保護対象なのに外来種？

セマルハコガメは、石垣島と西表島に自然分布している個体が国の天然記念物に指定されています。ところが、ほかの島々では国内外来種になってしまいます。その島の在来種と交配して雑種ができたり、固有種のカタツムリなどを食べてしまう可能性など、さまざまな影響が心配されています。しかし、天然記念物であるために、「文化財保護法」で守られており、許可なく捕獲したり譲渡することができません。保護をしても元の場所に戻すこともできず飼育するしかないため、悩みの種になっています。同じようにヤエヤマイシガメも希少な保護対象の種ですが、県の天然記念物であるミヤコサワガニを捕食していることが分かり、対策が必要になっています。



セマルハコガメ

甲長11~17cm



ヤエヤマイシガメ

甲長12~19cm

国指定天然記念物(1972)
環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧Ⅱ類
環境省 総合的に対策が必要な外来種
沖縄県 防除対策外来種(石垣島・西表島以外)

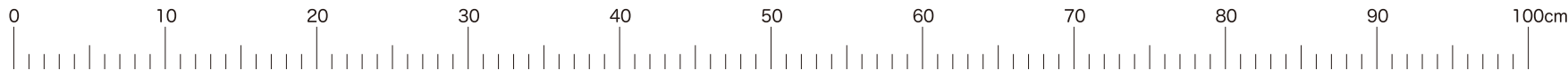
環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
石垣市自然環境保全条例保全種
竹富町指定特別希少野生動物種
沖縄県指定希少野生動物種(石垣島、西表島、与那国島の自然分布個体群に限る)
環境省 総合的に対策が必要な外来種
沖縄県 防除対策外来種(石垣島・西表島・与那国島以外)

甲羅の中に頭や手足を完全に収めることができる。アダンの実やサツマイモ、昆虫、ミミズ、カタツムリ類、大型動物の死骸などを食べる。

流水のある浅い水辺を好み、水草や藻類などの植物、昆虫類、甲殻類、オタマジャクシなどを食べる。



※2015年の環境省の調査で約6000個体が食用やペットとして海外に輸出され、自然における個体数は約3万3000と推測されており、現在ワシントン条約に基づいて輸出規制を行っている



しよくりょう
食糧が少なくない
時代は食べた。
いもち あぶら くすり
生血や脂は薬として利用した。



アカトゥカラ

サキシママダラ

環境省RL(2020)絶滅の恐れのある地域個体群
宮古島市保全種(2005)

やこうせい おも ちひょう せい かつ
夜行性で主に地表で生活し、カエルやヘビなどを食べる。フスバヴとも呼ばれ、フンのように丸くなつてみつかかることもある。



フス

子を患ふヘビ
フファダマバヴ
尾が切れているヘビ
ズーキシバヴ
神のヘビ
カムバヴ

ミヤコヒメヘビ

環境省RL(2020)絶滅危惧IB類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧I B類
宮古島市保全種(2005)

しめ ばしょ せんもんてき
湿った場所にすみ、ミミズを専門的に食べる。
おき かみ つか いえ や
尾が切れているヘビは神の使いとされ、家や屋敷内で見つけたら丁寧に関外へ逃がした。



ミヤコヒバア

固有種
国内希少野生動植物種(2020)
環境省RL(2020)絶滅危惧IB類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧II類
宮古島市保全種(2005)

カエルやヤモリを食べる。現在の姿になった時代は宮古諸島は海に沈んでいたとされており、島の成り立ちを知る上でとても重要なヘビ。



サキシマバイカダ

宮古島市保全種(2005)

じゅじょう
夜行性で主に樹上で生活し、トカゲやヤモリを食べる。細長く華奢。

目が大きく左右に飛び出ている



オーナズバヴ

サキシマスジオ

環境省RL(2020)絶滅危惧II類
さいだい しんりん かんきょう せいそく
国内最大。主に森林環境に生息するが、人家周辺や畑などにもいる。ネズミや小鳥を食べる。

ズバヴ

ブラーミニメクラヘビ

げんさん ち ふめい
原産地は不明。ツヤのあるウロコをもち、目はとても小さい。メスだけで繁殖する。シロアリやアリが好物。



ミミズのようなけどよく見るとウロコも目も舌もある



ヘビです

ハブはいない？

いま
今の宮古にハブがいないのは、かつて生息していた大型のハブが絶滅したからで、土壌が合わないというわけではありません。ハブのいる島々と同じような自然環境があるため、人間によってハブが持ち込まれると、定着してしまう可能性があります。





宮古諸島の陸棲両生類は、在来種のみヤコヒキガエルのほか4科4属4種が確認されています。



固
カーフウナタ
ミヤコヒキガエル
固有亜種
環境省RL(2020)準絶滅危惧種
宮古島市保全種(2005)
全長 6~12cm

宮古島と伊良部島の農地や森林付近に生息する。秋から翌春の繁殖期にメスの上にオスが抱きつく様子が見られる。乳白色の毒液を分泌するため食用にはしなかった。



マナタ
サキシマヌマガエル
全長 4.5~7cm

水納島、大神島以外の宮古全域に生息。繁殖期の春から夏に大合唱が聞こえる。昔は数も多く、捕って腿の部分を食べた。



クパガラ
ヒメアマガエル
全長 2.3~3cm

宮古島、伊良部島、多良間島に生息。動きが速く鳴き声が大きいため「元気、硬い」という意味の方言名がつく。

オタマジャクシの体がすくっている



外
シロアゴガエル
宮古全域に生息。泡状の卵塊を水辺の草木に産む。指に吸盤があり、植物だけでなく車や荷物に吸着して移動できるため、分布が広がる可能性がある。



卵塊

生き物に関わる法律や条例

南西諸島はそれぞれの島に固有の動植物が生息しています。これらの多くは珍しく希少なため、さまざまな法律で手厚く保護されています。環境や野生生物を守りながら自然を楽しめるよう、知っておきたいルールです。

天然記念物は
「触らない、そっと見守る」

オカヤドカリ類は宮古で普通に見られる動物ですが、許可なく捕まえてしまうと罰則の対象になります。(文化財保護法)

宮古島市保全種は
「捕まえない、傷つけない」

届け出なしに捕まえることや、傷つけ、命を奪うことは罰則の対象になります。(宮古島市自然環境保全条例)

国内希少野生動植物は
「捕まえない、傷つけない、他人に譲らない」

販売はもちろん、無料で譲り渡すことも禁止されています。羽や角など体の一部や殻、加工品であっても罰則の対象です。(種の保存法)

絶滅危惧種を守るために
「生息環境を荒らさない」

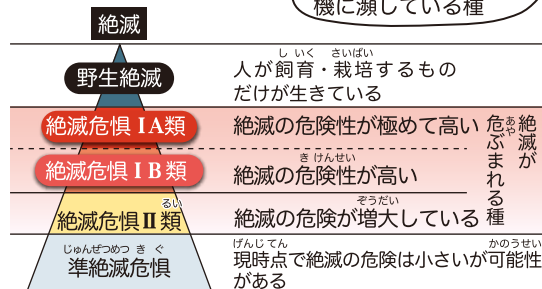
法律の規制はありませんが、生息環境を悪化させないことは絶滅を食い止めることにつながります。

沖縄県 RDB??
環境省 RL??

リストの見方(例)
沖縄県RDB: 絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL: 絶滅危惧ⅠA類

沖縄県では絶滅の危険が増大していて、日本国内では絶滅の危機に瀕している種

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生生物の種のリストで、国際的には国際自然保護連合が作成しており、国内では環境省のほか、地方自治体やNGOなどが作成しています。





じつ きやくこう かく るい
十脚甲殻類とは、エビ、カニ、ヤドカリ類のことで、パツと見て足が5対10本であることが大きな特徴です。宮古諸島には陸上や陸水域に11科31属62種が生息し、オカガニやヤシガニ、オカヤドカリなどの珍しい種を身近に観察することができます。



マクガン ヤシガニ



環境省RL2020絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB2017絶滅危惧Ⅱ類
多良間マクガン保護条例(2010)
宮古島市ヤシガニ保護条例(2011)

オカヤドカリの仲間では世界最大。おもに海岸林に生息し、植物の実や動物の死骸などを食べる。ハサミの力がとても強い。成長がとても遅く、メスは成熟に10年、500gになるのに25年以上かかる。



脚を広げると1mにも!

ヤシガニの生活史



大潮の満潮時に海に放卵し、ゾエア幼生というエビのような形で海中で浮遊します。数回脱皮を繰り返してグラウコトエ幼生まで成長すると、海中で自分に合った貝殻を探し、陸に上がります。この頃はオカヤドカリと見分けはつきません。脱皮を繰り返しながら約2年半ヤドカリの状態で過ごし、殻を脱いで大人のヤシガニと同じ姿になります。

ヤシガニの保全

ヤシガニは島民にとって貴重な食料でしたが、近年、観光客に珍味として注目され、乱獲によって数が減ってきています。そこで、多良間村と宮古島市は他地域に先駆けて保護条例を制定・施行し、保全に取り組んでいます。

宮古島市

ヤシガニ保護条例(2011)

- ・島内4か所の保護区域：通年捕獲禁止
- ・保護区内外の密猟防止のための保護監視員を設置
- ・6月1日～8月31日は保護区外でも捕獲禁止
- ・捕獲禁止期間以外は、甲長8cm未満と12cm以上、抱卵しているメスは捕獲禁止

池間地区



来間地区



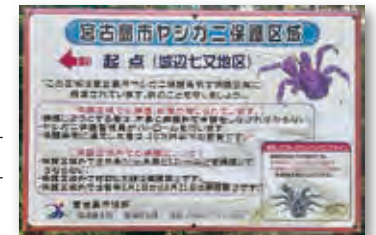
七又地区



多良間村

マクガン保護条例(2010)

- ・7月1日～8月31日は採取禁止
- ・甲長8cm以下または重さ600g以下、抱卵メスは通年採取禁止



起点と中間に看板が設置されている

間那津地区



国土地理院の空中写真を加工、加筆

オカヤドカリ類



国指定天然記念物(1970)

アマン

ヤシガニと同じように幼生の時は海で過ごし、貝殻を背負って上陸して稚ヤドカリになります。雑食性でなんでも食べ、砂浜や海岸、海岸沿いの林などに生息し、夜に活動します。宮古諸島では6種のオカヤドカリを見ることができます。

※特徴はあくまで目安です。小さいときはほとんど見分けがつきません。



オカヤドカリ
ハサミがつるん!と
している



ムラサキオカヤドカリ
全身が
ふさき色



ナキオカヤドカリ
ここぞ
音を出して
いるとも
言われている



コムラサキオカヤドカリ
マングローブ
にいる



オオナキオカヤドカリ
目が
円柱状

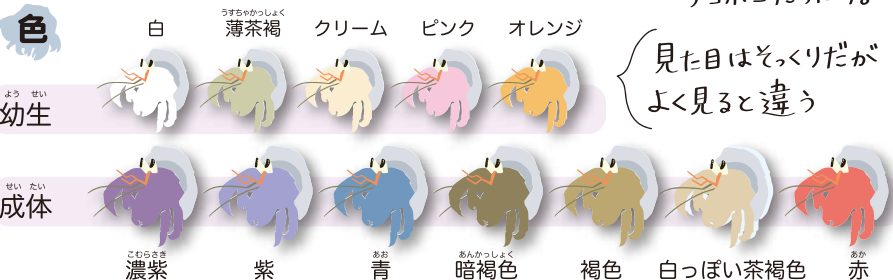
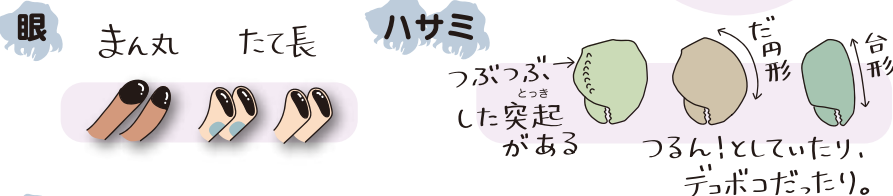
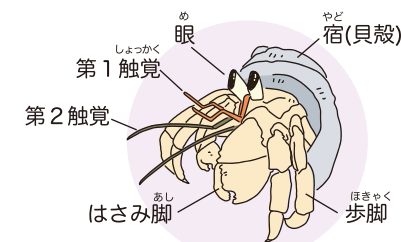
環境省RL(2020)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)



サキシマオカヤドカリ
まっ赤な
体色

環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧Ⅱ類
宮古島市保全種(2005)

観察してみよう



陸のヤドカリと海のヤドカリは違う



ヤドカリの仲間はエラ呼吸で、ほとんどの種類は一生を海で過ごし、水中でしか生きられません。一方、オカヤドカリ類は水中に入ると溺れてしまいます。



天然記念物なのにペット！？

オカヤドカリが天然記念物になったのは、小笠原諸島の個体数減少がきっかけでした。沖縄県が日本に返還されたあと、県内のオカヤドカリも天然記念物になりましたが、当時、琉球列島

ではそれほど珍しい生物ではなかったため、捕獲・販売して生計を立てていた業者もいたことから、一部地域の指定業者にだけ捕獲・販売を認めることになりました。



卵を海に流す様子

オカヤドカリ類と同じように成体は陸に棲みますが、幼生は海で生活します。中でもオカガニが満月の夜に満潮に合わせて一斉に放卵の様子は、夏の時期しか見ることができない貴重な風景です。



オカガニ

甲幅 約6cm



宮古島市保全種(2005)



オオオカガニ
(ミナミオカガニ)

甲幅 10cm超



海岸付近の林や水辺に巣穴を掘って生息する。夜行性で植物や小動物・死がいなどを食べる。宮古では食用として利用されていた。

日本産オカガニ類で最大。マングローブ域や海岸周辺に巣穴を掘って生息する。雑食性で植物や小動物、動物の死がいなどを食べる。

ほかにもいるよ!

ムラサキ
オカガニ



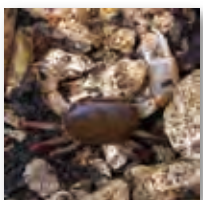
環境省RL(2020)準絶滅危惧
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧

ヒメオカガニ



環境省RL(2020)準絶滅危惧
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧

ヤエヤマ
ヒメオカガニ



ヘリトリ
オカガニ



環境省RL(2020)準絶滅危惧
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧

ミヤコサワガニ



オカガニは 何万個の卵を持ってがサワガニは 数十個。お腹で稚ガニがふ化する!

宮古島内の数カ所の湧水に生息。植物やカタツムリ、ヤゴなどを食べ、一生を淡水域で過ごす。1997年に発見され2002年に新種として登録。

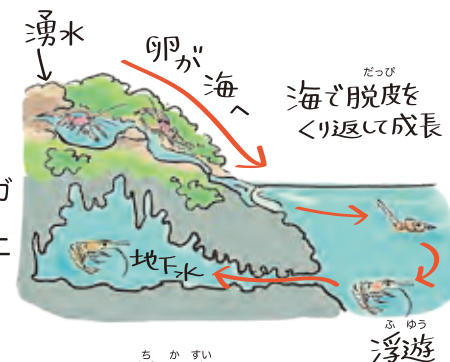
固有種
県指定天然記念物(2010)
国内希少野生動物植物種(2016)
環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅰ類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧ⅠA類

島の成り立ちのカギをにぎる!?

淡水にしかないミヤコサワガニが発見されたことで「過去に宮古島は海に沈んでいるので、陸にすむ生き物はすべて滅びた」という説が見直されました。

その他の淡水域の生き物

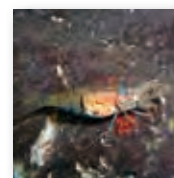
宮古諸島の湧水環境に生息するエビ、カニ類は27種いますが、ミヤコサワガニ以外は一度海へ出て、稚エビ・稚ガニとなって湧水域に戻ってきます。



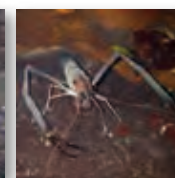
湧水などにすむ

地下水にすむ

サキシマ
ヌマエビ



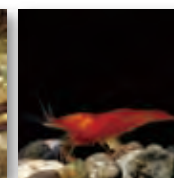
コンジン
テナガエビ



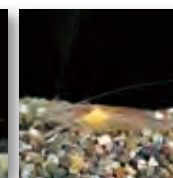
モクズガニ



ドウクツ
ヌマエビ



ウリガー
テナガエビ



宮古島市保全種(2005)